■鹿島テクニカルセンター合同研修会アンケート　　2026 年 9 月 18 日

□S 造・階段エリア

＜学んだ点＞

・工場製作が中心のため、付属部材を早期に図面で把握・確定することが重要

・型枠用・構造用デッキの見極め、許容スパン管理等の留意点を確認

・免震装置、地震時の可動域・クリアランス確保の重要性を学習

・鉄骨階段では、アンカーやボルトを隠す納まりや法的な寸法制限を 3D でイメージして作図することの重要性を認識

＜所感＞

・図面だけでは分かりにくい立体的な納まりを、実物モデルで確認でき理解が深まった

□RC 造・EV エリア

＜学んだ点＞

・柱・梁接合部や基礎梁の配筋納まり等を確認

・かぶり厚さ確保のためのスペーサーの選定・配置の重要性を学習

・型枠・支保工計画における東日本と西日本の施工手法・部材選定の違いを比較

・PC 部材、ボイドスラブ、エレベーターの昇降路・ピット納まりを学習

＜所感＞

・品質確保のための配筋納まりや地域性による施工の違いなどを見ることができた

□外装・屋上エリア

＜学んだ点＞

・外壁材の種類と特徴：ALC パネル、ECP などの納まりを確認

・屋根・屋上納まり：折板屋根、トップライト、屋上防水の取り合いを確認

・設備・付帯設備納まり：アルミルーバー、太陽光パネル、室外機置場周りを学習

＜所感＞

・外壁・屋根周りは雨仕舞い等のリスクが多く、各メーカーの工法特性や納まりを意識した作図が重要と実感

□内装エリア

＜学んだ点＞

・平面詳細図、天井伏図、断面図、断面詳細図それぞれの役割と、表示内容を整理

・CAD 図面と実物のギャップによる不整合を防ぐため、材料の厚みや施工手順・工法を綿密に検討する必要性を学習

・無溶接ドア枠工法は、ねじ止めで微調整が可能で、火災予防工程の削減や安全性向上につながることを確認

＜所感＞

・図面上の納まりと実施工の不整合のリスクを再認識し、より確実な図面を描く意識が高まった

□全体

・実物大モデルや工法サンプルの展示により、S 造・RC 造から内装・外装まで重要ポイントを体系的に学べた

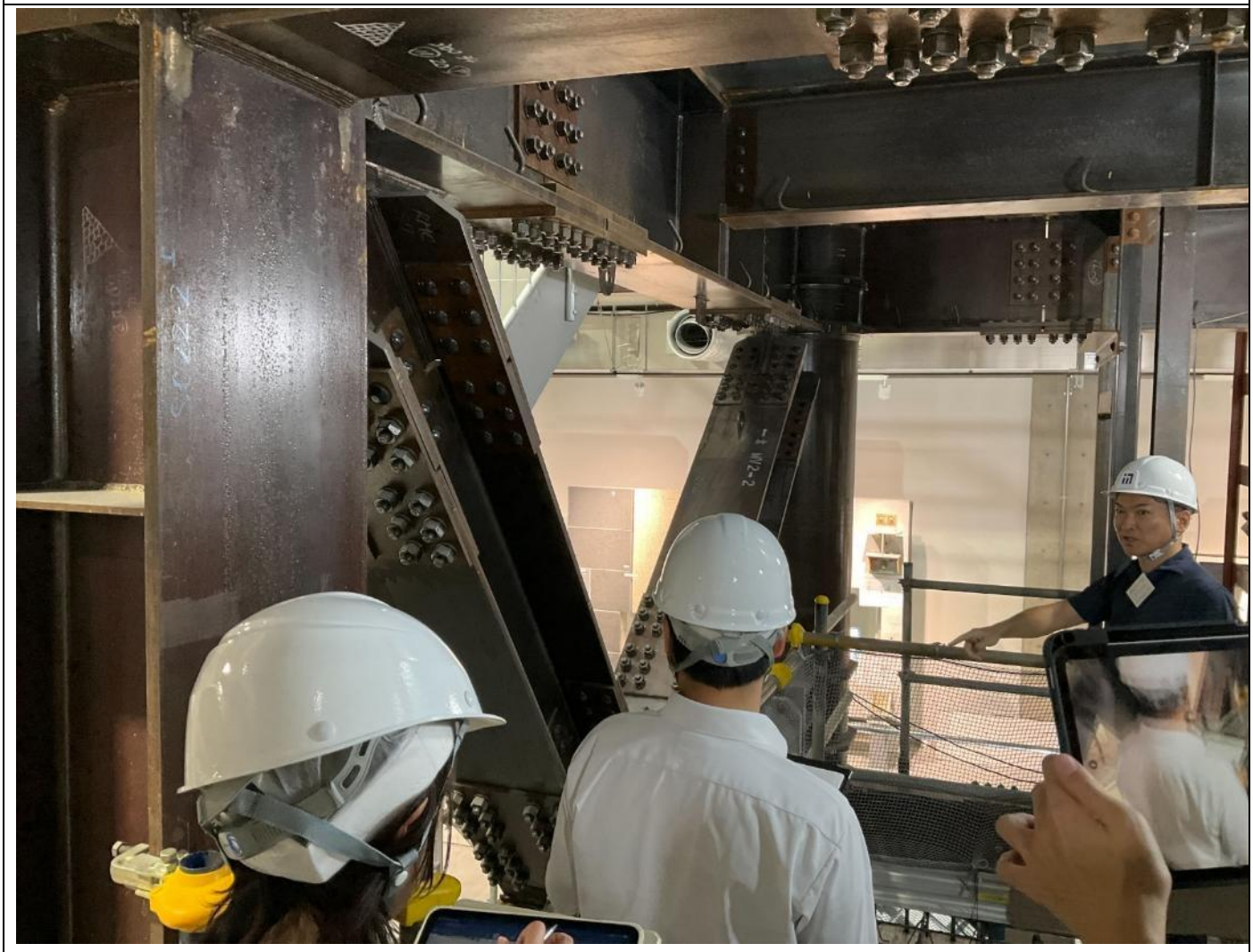
・2D 図面と 3D（実物）のギャップや、現場で起こりやすい納まりの課題への具体的なアプローチを直接確認できた

・今後の図面精度の向上に役立てたい

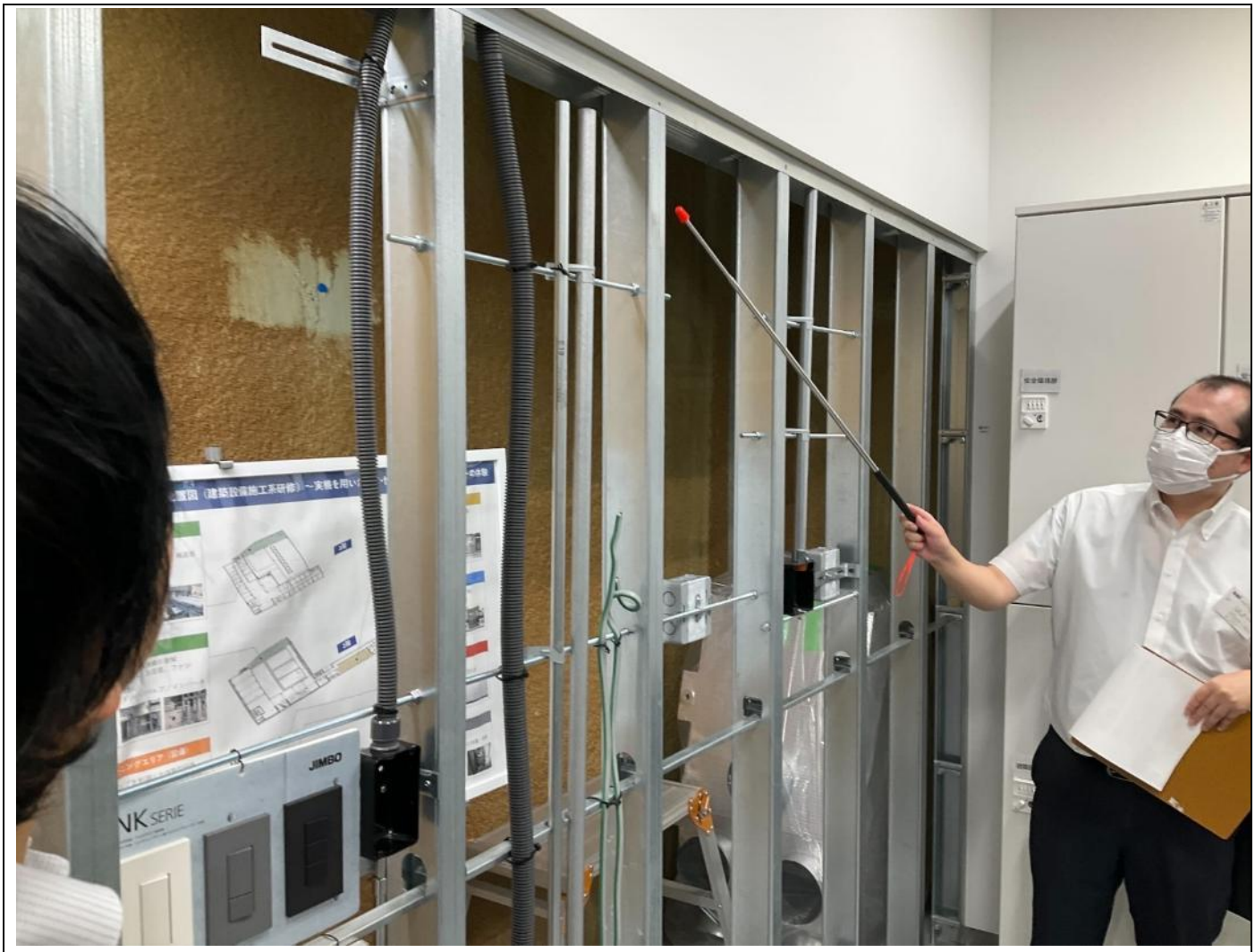
□その他感想や要望等自由記入

個人的には S 造の現場状況を見ることができる機会が少ないので貴重な経験になりました。
講師の皆様、鹿島建設の皆様、ご関係者の皆様　貴重な体験をご用意いただきありがとうございます。
今後の実務に役立てていければと思います。

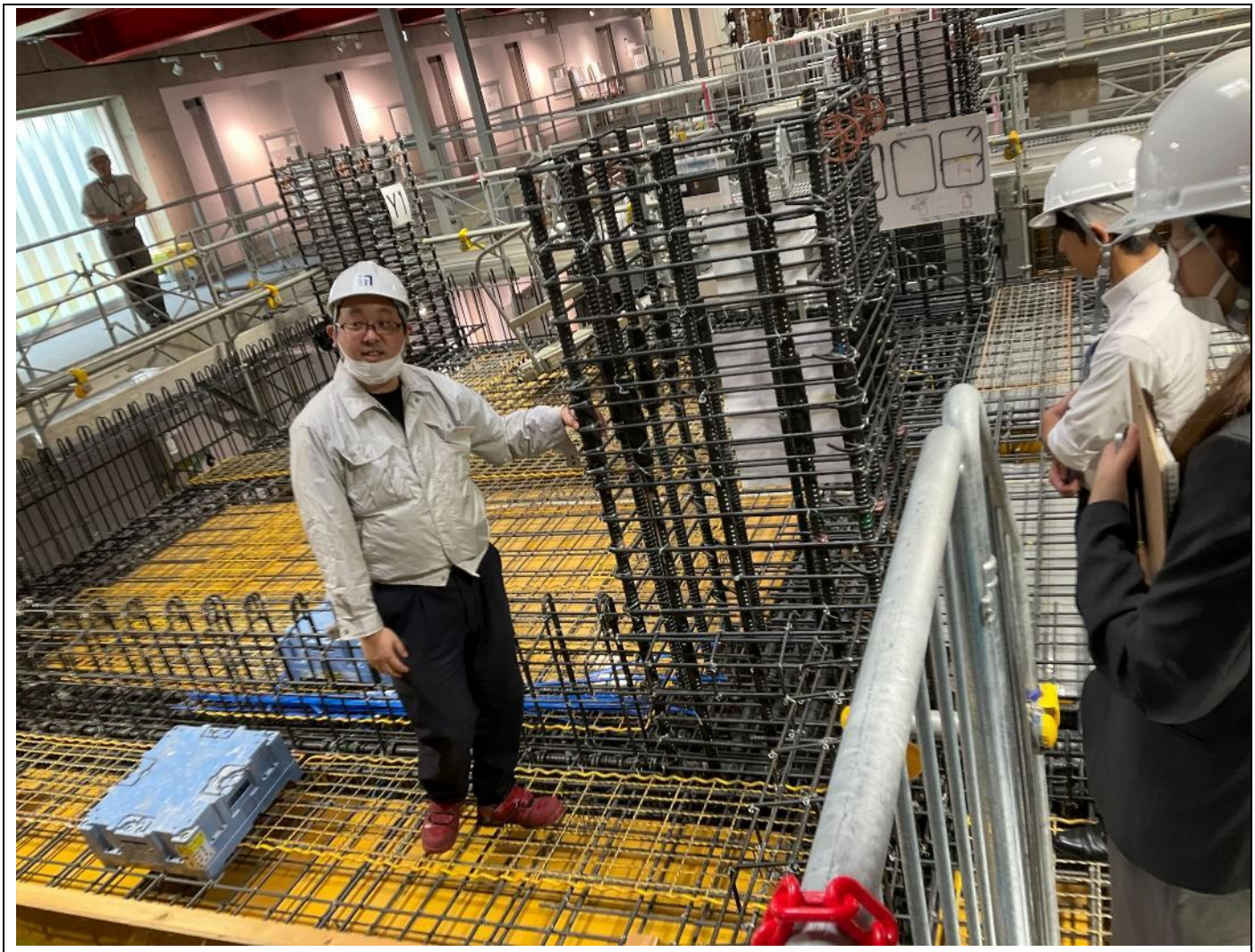
■写真（コメント等自由記載）



S 造　講義



内装　講義



RC 造　講義



外部　講義